

▲企画展

「森鷗外が支援した夭折の
天才発明家・矢頭良一展」
9月27日(土)～4月19日(日)

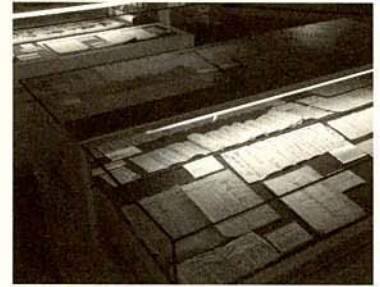


明治の発明家・矢頭良一が製造した「自動算盤」

「算盤」が、現存最古の機械式計算機として日本機械学会主催の「機械遺産」に認定されたのを記念して展覧会を開催しています。



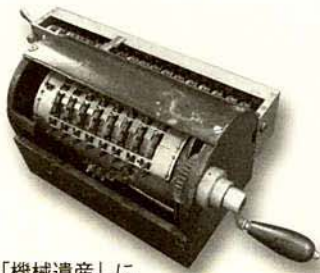
矢頭は、福岡県豊前市出身、飛行機研究の傍ら様々な発明品を世に送り出しました。本市ゆかりの作家である文豪・森鷗外は、赴任地小倉で矢頭の訪問を受け、才能を高く評価。理科大(現・東京大学理学部)での研究機会を与えます。著書「小



倉日記」には出会いが描かれ、矢頭が道半ばの三十歳で夭折したときには、「天馬行空」の書幅を遺族に贈るなど、その交流は深いものでした。

展覧会では、発明品「自動算盤」、「早繰辞書」、鷗外訪問時に父親に宛てた手紙、支援者への礼状などを展示し、その業績や生涯を紹介。また、若い才能を愛した鷗外の人物像にも迫ります。

展示資料 約五十点



「機械遺産」に認定された自動算盤

▲企画展

「響き合う 詩誌「たむたむ」展
——一〇七号のあゆみ 詩と出会って——
12月6日(土)～1月12日(月)

地域の同人誌展シリーズ第二回は、作家・岩下俊作と高校教師・青木新六が一九七二年に創刊した詩誌「たむたむ」の活動を紹介します。これまでのあゆみのほか、同人の詩心を支える資料、一〇五号まで表紙絵を担当した画家・小島敬三郎による原画などを展示。誌名にちなむ楽器・タムタムも加わり、あたたかな叙情詩の世界と響き合いました。

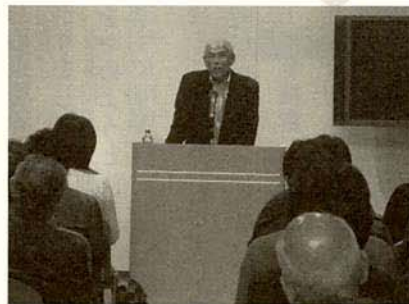
展示資料 約一〇〇点



+++++
詩誌「たむたむ」主催
記念講演・朗読会
12月13日(土)
+++++

◎鍋島幹夫さん講演会

「死と詩——古賀忠昭の場合」
展覧会を記念し、詩人・鍋島幹夫さん(日氏賞受賞、梅光学院大学准教授)による講演会が行われました。久留米の詩人・古賀忠昭の濃密な詩について、DVDの映像など交え、語っていただきました。



鍋島 幹夫さん

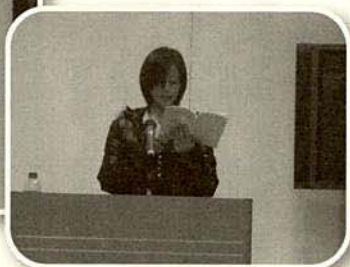
◎同人朗読会

講演会に続き、「たむたむ」同人による朗読会を開催。自作の詩やエッセイをそれぞれの表現で読み上げました。

参加者 五八人



朗読会の様子



たむたむ展入口におかれた楽器「タムタム」